

市内ため池における 2017 年度および 2021 年度の

生物調査結果概要（底生動物，魚類，両生類）

大畑 史江，岡村 祐里子，福岡 将之，榊原 靖*

Biological Survey (Benthic Animals, Fish and Amphibians) on Irrigation Reservoirs in Nagoya City (FY 2017 and 2021)

Fumie Ohata, Yuriko Okamura, Masayuki Fukuoka, Yasushi Sakakibara*

名古屋市内の主要なため池 13 地点において，2017 年度と 2021 年度に水生生物の調査を行った．底生動物では 2017 年度には 49 分類群，2021 年度には 39 分類群の生息を確認した．魚類では 2017 年度には 18 分類群，2021 年度には 14 分類群の生息を確認した．両生類では 2017 年度には 2 分類群，2021 年度にも 2 分類群の生息を確認した．

はじめに

名古屋市では，市内水域に生息する底生動物や魚類等の把握を目的に，1977 年から「市内河川等生物調査」を実施している．この一環として，1981 年より市内の主なため池に生息する生物の調査を継続的に行ってきた．本報は 2017 年度と 2021 年度に実施した調査結果の概要である．

ブルは全て 80%エタノールで固定して持ち帰り，後日，実体顕微鏡を用いて同定した．

2.2 魚類

投網を用いて捕獲した．投網は各地点 5 回以上行った．補助的に手網も使用した．

結果と考察

調査の結果，2017 年度には 49 分類群の底生動物および 18 分類群の魚類，2 分類群の両生類を確認した．また 2021 年度には 39 分類群の底生動物および 14 分類群の魚類，2 分類群の両生類を確認した．

調査方法

1. 調査地点，調査時期

市内の主なため池 13 地点において調査を行った．希少種の情報を含むため，地点名は Sta.1～Sta.13 とする．2017 年度の底生動物と両生類の調査は 6 月から 9 月に，魚類の調査は 7 月から 8 月に実施した．2021 年度の底生動物と両生類の調査は 5 月から 9 月に，魚類の調査は 7 月から 8 月に実施した．

2. 生物調査

2.1 底生動物と両生類

茶こし型の水棲網による採集を岸辺で約 1 時間行った．ほかに，池の中心付近でエクマンバージ型採泥器（14.5 cm×14.5 cm）を用いて底泥に生息する生物を採集した．各地点で採泥は 3 回行った．採取されたサン

1. 底生動物

2017 年度の調査で確認された底生動物目録を表 1 に，2021 年度の調査で確認された底生動物目録を表 2 に示した．また 2017 年度に各地点で採取された底生動物の結果を表 3 に，2021 年度に各地点で採取された底生動物の結果を表 4 に示した．

2017 年度には，軟体動物 5 分類群，環形動物 4 分類群，節足動物 40 分類群（うち，昆虫類 35 分類群），合計 49 分類群の生息を確認した．採取された生物は，概ね，過去の調査で市内のため池等に分布することが明らかになっている種であった¹⁾⁶⁾．

*元 名古屋市環境科学調査センター

表 1 底生動物目録（2017 年度）

MOLLUSCA 軟体動物門	AESCHNIDAE ヤンマ科
GASTROPODA 腹足綱	25 <i>Anax parthenope julius</i> ギンヤンマ
ARCHITAENIOGLOSSA 原始紐舌目	MACROMIIDAE ヤマトンボ科
VIVIPERRIDAE タニシ科	26 <i>Epophthalmia elegans</i> オオヤマトンボ
1 <i>Sinoitaia quadrata histrica</i> ヒメタニシ	LIBELLULIDAE トンボ科
PULMONATA 有肺目	27 <i>Rhyothemis fuliginosa</i> チョウトンボ
LIMNAEIDAE モノアラガイ科	28 <i>Pseudothemis zonata</i> コシアキトンボ
2 <i>Austropeplea ollula</i> ヒメモノアラガイ	29 <i>Deielia phaon</i> コフキトンボ
3 <i>Pseudosuccinea columella</i> ハブタエモノアラガイ	30 <i>Crocothemis servilia mariannae</i> ショウジョウトンボ
PHYSIDAE サカマキガイ科	31 <i>Orthetrum albistylum speciosum</i> シオカラトンボ
4 <i>Physella acuta</i> サカマキガイ	HEMIPTERA 半翅目
PLANORBIDAE ヒラマキガイ科	BELOSTOMATIDAE コオイムシ科
5 PLANORBIDAE gen. et sp. ヒラマキガイ科の一種	32 <i>Appasus japonicus</i> コオイムシ
ANNELIDA 環形動物門	CORIXIDAE ミズムシ科
OLIGOCHAETA 貧毛綱	33 <i>Micronecta</i> spp. チビミズムシ属の類
6 OLIGOCHAETA ord., fam., gen. et spp. 貧毛綱の類	34 <i>Sigara</i> sp. コミズムシ属の一種
PLESIOPORA 近生殖門目	PLEIDAE マルミズムシ科
TUBIFICIDAE イトミズ科	35 <i>Paraplea indistinguenda</i> ヒメマルミズムシ
7 <i>Branchiura sowerbyi</i> エラミミズ	GERRIDAE アメンボ科
HIRUDINEA ヒル綱	36 <i>Aquarius paludum</i> ナミアメンボ
8 HIRUDINEA ord., fam., gen. et spp. ヒル綱の類	37 <i>Rhagadotarsus kraepelini</i> トガリアメンボ
RHYNCHOBDELLIDA 吻蛭目	38 <i>Gerris nepalensis</i> ハネナシアメンボ
GLOSSIPHONIIDAE グロシフオニ科	NEUROPTERA 広翅目
9 <i>Helobdella stagnalis</i> スマビル	SIALIDAE センブリ科
ARTHROPODA 節足動物門	39 <i>Sialis japonica</i> ネグロセンブリ
MALACOSTRACA 軟甲綱	TRICHOPTERA 毛翅目
ISOPODA 等脚目	ECNOMIDAE ムネカクトビケラ科
ASELLIDAE ミズムシ科	40 <i>Ecnomus</i> spp. ムネカクトビケラ属の類
10 <i>Asellus hilgendorffii</i> ミズムシ	COLEOPTERA 甲虫目
CRUSTACEA 甲殻綱	NOTERIDAE コツブゲンゴロウ科
DECAODA 十脚目	41 <i>Noterus japonicus</i> コツブゲンゴロウ
PALAEOMONIDAE テナガエビ科	HYDROPHILIDAE ガムシ科
11 <i>Palaemon paucidens</i> スジエビ	42 <i>Enochrus japonicus</i> キベリヒラタガムシ
12 <i>Macrobrachium nipponense</i> テナガエビ	43 <i>Amphiops mater</i> タマガムシ
ATYIDAE スマエビ科	DIPTERA 双翅目
13 <i>Neocaridina</i> spp. カワリヌマエビ属の類	CULICIDAE カ科
CAMBARIDAE アメリカザリガニ科	44 <i>Culex bitaeniorhynchus</i> カラツイエカ
14 <i>Procambarus clarkii</i> アメリカザリガニ	45 CULICIDAE gen. et spp. カ科の類
INSECTA 昆虫綱	CHIRONOMIDAE ユスリカ科
EPHEMEROPTERA カゲロウ目	46 CHIRONOMIDAE gen. et spp. ユスリカ科の類
EPHEMEROPTERA コカゲロウ科	STRATIOMYIDAE ミズアブ科
15 <i>Cloeon ryogokuense</i> タマリフタバカゲロウ	47 STRATIOMYIDAE gen. et spp. ミズアブ科の一種
16 <i>Cloeon</i> sp. フタバカゲロウ属の一種	EPHYDRIDAE ミギワバエ科
17 <i>Ephemera orientalis</i> トウヨウモンカゲロウ	48 EPHYDRIDAE gen. et spp. ミギワバエ科の一種
ODONATA トンボ目	CHAOBORIDAE フサカ科
LESTIDAE アオイトトンボ科	49 <i>Chaoborus</i> spp. フサカ属の類
18 <i>Sympecma paedisca</i> オツネイトンボ	
PLATYCNEMIDIDAE モノサシトンボ科	
19 <i>Copera annulate</i> モノサシトンボ	
AGRIONIDAE イトトンボ科	
20 <i>Ischnura senegalensis</i> アオモンイトトンボ	
21 <i>Ischnura</i> spp. アオモンイトトンボ属の類	
22 <i>Paracercion calamarum</i> クロイトンボ	
23 <i>Paracercion hieroglyphicum</i> セスジイトンボ	
24 <i>Paracercion</i> spp. クロイトンボ属の類	

また 2021 年度には、軟体動物 5 分類群、環形動物 4 分類群、節足動物 30 分類群（うち昆虫類 26 分類群）、合計 39 分類群の生息を確認した。2017 年度同様、採取された生物は、概ね、過去の調査で市内のため池等に分布することが明らかになっている種であった¹⁾⁻⁶⁾。

池の底泥からは貧毛類 OLIGOCHAETA ord., fam., gen. et spp., ユスリカ科の類 CHIRONOMIDAE gen. et spp., フサカ属の類 *Chaoborus* spp., ヌカカ科の類 CERATOPOGONIDAE gen. et spp. が確認された。

貧毛類は、2009 年度や 2013 年度の結果と比べて多く

の地点で確認され、2017 年度の結果では 13 地点中 12 地点、2021 年度の結果では 13 地点全てにおいて確認された。

一方でユスリカ類は 2013 年度の調査時には 12 地点全てで確認され、今回 Sta.8 とした地点でも確認されていたが、今回報告する 2017 年と 2021 年度においては、Sta.8 のみ両年度とも確認されなかった。Sta.8 では近年、水生植物も衰退しており⁷⁾、底質の悪化が懸念される。

表 2 底生動物目録（2021 年度）

MOLLUSCA 軟体動物門	AESCHNIDAE ヤンマ科
GASTROPODA 腹足綱	18 <i>Anax parthenope julius</i> ギンヤンマ
ARCHITAEENIOGLOSSA 原始紐舌目	MACROMIIDAE ヤマトンボ科
VIVIPERRIDAE タニシ科	19 <i>Epopthalmia elegans</i> オオヤマトンボ
1 <i>Simotia quadrata histrica</i> ヒメタニシ	LIBELLULIDAE トンボ科
PULMONATA 有肺目	20 <i>Pseudothemis zonata</i> コシアキトンボ
LIMNAEIDAE モノアラガイ科	21 <i>Deileia phaon</i> コフキトンボ
2 <i>Austropeplea ollula</i> ヒメモノアラガイ	22 <i>Orthetrum triangulare melania</i> オオシオカラトンボ
3 <i>Pseudosuccinea columella</i> ハブタエモノアラガイ	23 <i>Orthetrum albistylum speciosum</i> シオカラトンボ
PHYSIDAE サカマキガイ科	PLECOPTERA カワゲラ目
4 <i>Physella acuta</i> サカマキガイ	NEMOURIDAE オナシカワゲラ属
PLANORBIDAE ヒラマキガイ科	24 <i>Nemoura</i> sp. オナシカワゲラ属の一種
5 PLANORBIDAE gen. et sp. ヒラマキガイ科の一種	HEMIPTERA 半翅目
ANNELIDA 環形動物門	BELOSTOMATIDAE コオイムシ科
OLIGOCHAETA 貧毛綱	25 <i>Appasus japonicus</i> コオイムシ
6 OLIGOCHAETA ord., fam., gen. et spp. 貧毛綱の類	CORIXIDAE ミズムシ科
PLESIOPORA 近生殖門目	26 <i>Micronecta</i> spp. チビミズムシ属の類
TUBIFICIDAE イトミミズ科	27 <i>Sigara</i> sp. コミズムシ属の一種
7 <i>Branchiura sowerbyi</i> エラミミズ	28 CORIXINAE gen. et spp. ミズムシ亜科の類
HIRUDINEA ヒル綱	NOTONECTIDAE マツモムシ科
8 HIRUDINEA ord., fam., gen. et spp. ヒル綱の類	29 <i>Notonecta triguttata</i> マツモムシ
RHYNCHOBDELLIDA 吻蛭目	30 <i>Anisops ogasawarensis</i> コマツモムシ
GLOSSIPHONIIDAE グロシフォニ科	GERRIDAE アメンボ科
9 <i>Helobdella stagnalis</i> スマビル	31 <i>Aquarius paludum</i> ナミアメンボ
ARTHROPODA 節足動物門	32 <i>Aquarius elongatus</i> オオアメンボ
CRUSTACEA 甲殻綱	TRICHOPTERA 毛翅目
DECAODA 十脚目	ECNOMIDAE ムネカクトビケラ科
PALAEMONIDAE テナガエビ科	33 <i>Ecnomus</i> spp. ムネカクトビケラ属の類
10 <i>Palaemon paucidens</i> スジエビ	COLEOPTERA 甲虫目
11 <i>Macrobrachium nipponense</i> テナガエビ	HALIPLIDAE コガシラミズムシ科
ATYIDAE スマエビ科	34 <i>Haliplus sharpi</i> マダラコガシラミズムシ
12 <i>Neocaridina</i> spp. カワリヌマエビ属の類	HYDROPHILIDAE ガムシ科
CAMBARIDAE アメリカザリガニ科	35 <i>Amphiops mater</i> タマガムシ
13 <i>Procambarus clarkii</i> アメリカザリガニ	DIPTERA 双翅目
INSECTA 昆虫綱	TIPULIDAE ガガンボ科
EPHEMEROPTERA カゲロウ目	36 <i>Tipula</i> sp. ガガンボ属の一種
EPHEMEROPTERA コカゲロウ科	CHIRONOMIDAE ユスリカ科
14 <i>Cloeon</i> sp. フタバカゲロウ属の一種	37 CHIRONOMIDAE gen. et spp. ユスリカ科の類
ODONATA トンボ目	CHABORIDAE フサカ科
AGRIONIDAE イトンボ科	38 <i>Chaoborus</i> spp. フサカ属の類
15 <i>Ischnura</i> spp. アオモンイトンボ属の類	CERATOPOGONIDAE スカカ科
16 <i>Paracercion calamorum</i> クロイトンボ	39 CERATOPOGONIDAE gen. et spp. スカカ科の類
17 <i>Paracercion</i> spp. クロイトンボ属の類	

2009年度の調査でも報告されたカワリヌマエビ属 *Neocaridina* spp.は、2009年度の調査においてSta.1とSta.2のみで報告されていた。今回新たにSta.4, Sta.5, Sta.11でもカワリヌマエビ属が見つかり、市内において分布域を広げているものと思われる。今回見つかったカワリヌマエビ属の外観は、前側角に棘を持つなど、同属のミナミヌマエビ *N. denticulata*に酷似していた。しかしミナミヌマエビと外観がほぼ同じである中国産カワリヌマエビ属の侵入が西野らによって報告されており⁸⁾、名古屋市で見つかったものについても外来種である可能性が高いため、今回カワリヌマエビ属の類として報告した。これらの分類については、今後詳細な検討が必要である。

2. 魚類

2017年度の調査で捕獲された魚類の目録を表5に、各地点で採取された魚類の結果を表7に示した。

また、2021年度の調査で捕獲された魚類の目録を表6に、各地点で採取された魚類の結果を表8に示した。2017年度の調査では18分類群が、2021年度の調査では14分類群が確認された。

ブルーギル *Lepomis macrochirus*は、2017年度は13地点中11地点、2021年度は13地点中10地点で見られた。また同じく特定外来生物のオオクチバス *Micropterus salmoides*、カダヤシ *Gambusia affinis*も多くの地点で見られ、過去の調査結果¹⁾⁻⁶⁾と同様に、市内の広い範囲に特定外来生物が生息していることを示す結果となった。

また今回の調査において、過去の調査¹⁾⁻⁶⁾と同様に、Sta.7でメダカ属の一種 *Oryzias* sp.が確認された。メダカは環境省のレッドリストおよび名古屋版レッドリストにおいて絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されているが、1990年代後半から市内においてメダカ保護のための放流活動による分布拡大の可能性が指摘されている⁹⁾。日本のメダカは地域によってキタノメダカ *O. sakaizumii*とミナミメダカ *O. latipes*に分かれ、さらにいくつかの地域個体群が存在することが知られている⁷⁾。放流は遺伝子群の地域固有性を損ない、生物多様性を低下させる原因となる。Sta.7に生息するメダカの由来を解明するために、今後、遺伝的な調査を検討する必要がある。

表3 底生動物調査結果 (2017 年度)

種名	地点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1 ヒメタニシ						○					○	○		
2 ヒメモノアラガイ										○	○			
3 ハブタエモノアラガイ	○												○	
4 サカマキガイ			○		○					○	○	○	○	
5 ヒラマキガイ科の一種										○				
6 貧毛綱の類	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7 エラミズ								○		○				
8 ヒル綱の類										○		○		
9 スマビル						○						○		
10 ミズムシ											○	○		
11 スジエビ	○				○		○	○	○	○	○	○	○	○
12 テナガエビ			○	○	○						○	○		
13 カワリヌマエビ属の類	○			○	○							○		
14 アメリカザリガニ		○	○	○	○		○	○			○		○	
15 タマリバカゲロウ	○		○							○				
16 フタバカゲロウ属の一種										○				
17 トウヨウモンカゲロウ			○											
18 オツネトンボ										○				
19 モノサシトンボ					○									
20 アオモンイトトンボ				○										
21 アオモンイトトンボ属の類										○		○	○	○
22 クロイトトンボ	○					○				○				
23 セスジイトトンボ	○									○				
24 クロイトトンボ属の類						○	○			○				
25 ギンヤシマ														○
26 オオヤマトンボ		○	○	○									○	
27 チョウトンボ									○					
28 コシアキトンボ					○							○		
29 コフキトンボ	○	○												
30 ショウジョウトンボ													○	
31 シオカラトンボ			○											
32 コオイムシ									○					
33 テビミズムシ属の類	○					○							○	○
34 コミズムシ属の一種										○				
35 ヒメマルミズムシ										○				
36 ナミアメンボ	○		○			○	○	○			○	○	○	○
37 トガリアメンボ												○		
38 ハネナシアメンボ							○			○				
39 ネグロセンブリ			○											
40 ムネカクトビケラ属の類				○								○		
41 コツプゲンゴロウ										○				
42 キベリヒラタガムシ					○									
43 タマガムシ										○				
44 カラツイエカ										○				
45 カ科の類									○	○				
46 ユスリカ科の類	○	○	○		○	○	○			○	○	○	○	○
47 ミズアブ科の一種										○				
48 ミギワバエ科の一種										○				
49 フサカ属の類	○	○	○	○										

表4 底生動物調査結果 (2021 年度)

種名	地点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1 ヒメタニシ					○		○				○	○		
2 ヒメモノアラガイ			○				○							
3 ハブタエモノアラガイ				○									○	
4 サカマキガイ	○		○	○			○	○	○				○	
5 ヒラマキガイ科の一種										○				
6 貧毛綱の類	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7 エラミズ					○				○	○	○	○	○	○
8 ヒル綱の類								○		○	○			
9 スマビル								○	○					
10 スジエビ	○				○		○	○	○	○	○	○	○	○
11 テナガエビ				○							○			
12 カワリヌマエビ属の類	○				○							○		
13 アメリカザリガニ	○			○										○
14 フタバカゲロウ属の一種	○		○	○			○						○	
15 アオモンイトトンボ属の類				○										○
16 クロイトトンボ				○		○								
17 クロイトトンボ属の類						○	○			○				
18 ギンヤシマ				○										
19 オオヤマトンボ				○										
20 コシアキトンボ	○		○	○	○	○					○	○	○	○
21 コフキトンボ			○							○				○
22 オオシオカラトンボ		○												
23 シオカラトンボ				○										
24 オナシカワゲラ属の一種				○										
25 コオイムシ										○				
26 テビミズムシ属の類	○	○	○			○				○				○
27 コミズムシ属の類						○				○				
28 ミズムシ亜科の類			○											
29 マツモムシ													○	
30 コマツモムシ													○	
31 ナミアメンボ			○	○							○			
32 オオアメンボ										○				
33 ムネカクトビケラ属の類		○												
34 マダラコガシラミズムシ			○											
35 タマガムシ											○			
36 ガガンボ属の一種			○											
37 ユスリカ科の類	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○
38 フサカ属の類		○	○											
39 スカカ科の類	○	○												

表5 魚類目録 (2017 年度)

ACTINOPTERYGII 条鰭綱

CIPRINIFORMES コイ目

CYPRINIDAE コイ科

- 1 *Cyprinus carpio carpio* コイ
- 2 *Carassius cuvieri* ゲンゴロウブナ
- 3 *Carassius* spp. フナ属の類
- 4 *Rhodeus ocellatus ocellatus* タイリクバラタナゴ
- 5 *Zacco platypus* オイカワ
- 6 *Nipponocypris seiboldii* スマムツ
- 7 *Pseudorasbora parva* モツゴ
- 8 *Pseudogobio esocinus* カマツカ
- 9 *Squalidus japonicus japonicus* デメモロコ
- 10 *Squalidus chankaensis tsuchige* コウライモロコ
- 11 *Squalidus* spp. スゴモロコ属の一種

CYPRINODONTIFORMES カダヤシ目

POECILIIDAE カダヤシ科

- 12 *Gambusia affinis* カダヤシ

BELONIFORMES ダツ目

ADRIANICHTHYIDAE メダカ科

- 13 *Oryzias* sp. メダカ属の一種

PERCIFORMES スズキ目

CENTRARCHIDAE サンフィッシュ科

- 14 *Lepomis macrochirus* ブルーギル
- 15 *Micropterus salmoides* オオクチバス

PERCIFORMES スズキ目

GOBIIDAE ハゼ科

- 16 *Rhinogobius* spp. ヨシノボリ属の類
- 17 *Tridentiger brevispinis* スマチチブ

CHANNIDAE タイワンドジョウ科

- 18 *Channa argus argus* カムルチー

表 6 魚類目録 (2021 年度)

ACTINOPTERYGII 条鰭綱	
CIPRINIFORMES コイ目	BELONIFORMES ダツ目
CYPRINIDAE コイ科	ADRIANICHTHVIDAE メダカ科
1 <i>Cyprinus carpio carpio</i> コイ	10 <i>Oryzias</i> sp. メダカ属の一種
2 <i>Carassius</i> spp. フナ属の類	PERCIFORMES スズキ目
3 <i>Pseudorasbora parva</i> モツゴ	CENTRARCHIDAE サンフィッシュ科
4 <i>Gnathopogon elongatus elongatus</i> タモロコ	11 <i>Lepomis macrochirus</i> ブルーギル
5 <i>Pseudogobio esocinus</i> カマツカ	12 <i>Micropterus salmoides</i> オオクチバス
6 <i>Hemibarbus barbus</i> ニゴイ	GOBIIDAE ハゼ科
7 <i>Squalidus</i> spp. スゴモロコ属の一種	13 <i>Rhinogobius</i> spp. ヨシノボリ属の類
8 CYPRINIDAE gen., et sp. コイ科の類	14 <i>Tridentiger brevispinis</i> スマチチブ
CYPRINODONTIFORMES カダヤシ目	
POECILIIDAE カダヤシ科	
9 <i>Gambusia affinis</i> カダヤシ	

表 7 魚類調査結果 (2017 年度)

種名 \ 地点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1 コイ	○	○			○	○	○	○	○	○	○		○
2 ゲンゴロウブナ								○					
3 フナ属の類	○	○	○			○	○	○		○			
4 タイリクバラタナゴ												○	
5 オイカフ		○			○								
6 ムマツ									○				
7 モツゴ	○	○			○			○	○	○	○	○	○
8 カマツカ			○										
9 デメモロコ	○												
10 コウライモロコ		○											
11 スゴモコ属の一種		○											
12 カダヤシ					○	○		○	○	○	○	○	○
13 メダカ属の一種							○						
14 ブルーギル	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	
15 オオクチバス	○	○	○	○	○	○	○	○					○
16 ヨシノボリ属の類	○		○		○				○	○	○	○	
17 ナマチチブ	○												
18 カムルチー						○	○						

表 8 魚類調査結果（2021 年度）
（○は捕獲，△は目視）

[illegible]

3. 両生類

今回、底生動物の捕獲時に両生類の幼生を捕獲したので合わせて報告する。2017年度の調査で捕獲された両生類の目録を表9に、各地点で採取された両生類の結果を表11に示した。

また、2021 年度の調査で捕獲された両生類の目録を表 10 に、各地点で採取された両生類の結果を表 12 に示した。

2017 年度, 2021 年度の結果を合わせると, 13 地点中 8 地点でウシガエル *Rana caesbeiana* が確認された。特定外来生物に指定されているにも関わらず, ウシガエルが市内に広く生息している様子が確認された。また, Sta.3 では 2017 年度にトノサマガエル *R. nigromaculata* (名古屋市版レッドリスト: 絶滅危惧 II 類), 2021 年度にアズマヒキガエル *Bufo japonicus formosus* (名古屋市版レッドリスト: 絶滅危惧 IA 類) がみついている。これは Sta.3 の周囲が森に囲まれ, 市内では貴重な両生類の生息場所になっていることを示していると考えられる。

両生類は陸と水を行き来して生活するため、陸と水の両方の環境に影響される。ため池の生態系を保全するには、周辺環境も合わせて保全していく必要がある。

表 9 両生類目録 (2017 年度)

AMPHIBIA 両生綱
ANURA 無尾目
 RANIDAE アカガエル科
 1 *Rana catesbeiana* ウシガエル
 2 *Rana nigromaculata* トノサマガエル

表 10 両生類目録 (2021 年度)

AMPHIBIA 両生綱
ANURA 無尾目
RANIDAE アカガエル科
1 *Rana catesbeiana* ウシガエル
BUFONIDAE ヒキガエル科
2 *Bufo japonicus formosus* アズマヒキガエル

表 11 両生類調査結果（2017 年度）

種名 \ 地点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1 ウシガエル	○			○		○	○			○		○	○
2 トノサマガエル			○										

表 12 両生類調査結果（2021 年度）

種名 \ 地点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1 ウシガエル		○		○						○		○	○
2 アズマヒキガエル			○										

文 献

- 1) 岡村祐里子, 安藤良, 長谷川絵理, 榊原靖: 名古屋市
市内のため池における生物相, 名古屋市環境科学研
究所報, 40, 46-49 (2010)
- 2) 鎌田敏幸, 村上哲生, 榊原靖, 武内昭夫: 1993 年度
生物調査の概要 (底生生物, 魚類), 名古屋市環境
科学研究所報, 24, 73-89 (1994)
- 3) 鎌田敏幸, 村上哲生, 榊原靖: 1995 年度生物調査の
概要 (底生生物, 魚類), 名古屋市環境科学研究所
報, 26, 83-90 (1996)
- 4) 鎌田敏幸, 榊原靖, 村上哲生: 1997 年度生物調査結
果の概要 (底生動物, 魚類), 名古屋市環境科学研
究所報, 28, 75-80 (1998)
- 5) 鎌田敏幸, 榊原靖: 名古屋市内の溜池の生物相 (底
生動物, 魚類, 動物プランクトン), 名古屋市環境
科学研究所報, 32, 65-67 (2002)
- 6) 鎌田敏幸, 鈴木直喜, 榊原靖: 市内河川に生息する
底生動物, 魚類, 名古屋市環境科学研究所報, 34,
49-56 (2004)
- 7) 名古屋市環境局地域環境対策課, 環境局環境科学調
査センター, 緑政土木局河川計画課: 市内河川・た
め池・名古屋港の水質の変遷, 令和 3 年 3 月
- 8) 西野真知子: 日本への外来カワリヌマエビ属
(*Neocaridina* spp.) の侵入とその分類学的課題, 地
域自然史と保全, 39, 21-28 (2017)
- 9) 竹花祐介, 北川忠生: メダカ: 人為的な放流による
遺伝的攪乱, 魚類学雑誌, 57, 76-79 (2010)